

佐々木 達司（ささき・たつじ）

1、プロフィール

半世紀以上、県内はもとより全国の口承文芸の調査研究にあたる。日本口承文芸学会・日本昔話学会会員。青森県史編さん民俗部門専門委員。

<生没>

1932(昭和7)年11月27日 ~ 2020(令和2)年7月7日

<代表作>

『物語かたり候—青森の早物語—』(平成20年)。早口でかたる語り物。

<青森との関わり>

五所川原市に青森県文芸協会を設立し、広く県内の文芸全般の普及・発展に努めた。『文芸あおもり』を発刊したほか、「青森県文芸賞」の創設・選定にあたった。

2、作家解説

昭和7年、西津軽郡稲垣村(現つがる市稲垣町)で出生。同23年、県立木造高等学校を中退後、日本基督教団木造教会、東奥義塾図書館(司書)、青森民友新聞社(五所川原市)に勤務する。同44年、五所川原市に青森県文芸協会、同49年に文芸印刷を創立した。

地元津軽のみならず全国各地に足を運び、口承文芸や昔話などの採集、集成、分類整理に努め、多数の書籍を発行した。その一つである『〈新版〉青森県なぞなぞ集』(平成18年)では、県内で採集した「二段なぞ」が2600問、「三段なぞ」が100問収録されている。「索引」、「引用資料一覧(資料改題)」が充実したものとなっている。

平成24年から同29年の間、佐々木は個人誌「津軽の民話 落穂拾い」を全12号発行した。「関心をもって集めていた事例も、活字にしておかないと消えてしまう。

稲を刈取る力はなくとも、まだ落ち穂拾いぐらいはできそうである。」と第1号に書いている。第1号「鳥居の鬼コ」(弘前市)、第4号「岩木川と岩木山」(つがる市)、第5号「水虎様」(つがる市)、第6号「鬼神社」(弘前市)、第11号「十三湖」(五所川原市十三)、第12号「鶴の舞橋」(鶴田町)など、長年の研究成果が網羅されている。また、各号の表紙を、自身で撮った鮮明な写真で飾っている。

その他、地元木造に関する随想「河童の神様」、「虫送りあれこれ」などを、新聞・雑誌に多数発表した。また、俳人成田千空調査研究会代表として資料を収集し、評伝「千空研究」を刊行した。

令和2年7月7日、五所川原市増田病院で死去。享年87歳。遺作集に、『あおもり俗信辞典』(令和4年)がある。